

第 31 期 事業報告

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

株式会社 エヌエイチケイプラネット

1 会社の現況に関する事項

(1) 事業運営の経過及び成果

第31期(平成30年度)における当社の売上高は86億円余り、営業利益が3億5千万円余りと堅調な業績となりました。前期に近畿総支社が手掛けた「特別展 海北友松」と「特別展 北斎」、「国宝展」の3つの大型展覧会の終了に伴い、売上高、営業利益はともに対前期比では減少しましたが、NHKからの番組制作、事業イベントの受託は順調に推移しました。

当期は「NHKの地域改革に伴う支援業務」および「経営基盤の整備」への対応を中心に取り組みました。

「NHKの地域改革に伴う支援業務」では、地域の放送・サービスの強化に向けNHKが打ち出したいわゆる「地域改革」に伴い、地域放送局への支援を充実・強化するため、新たに本社内に「地域支援プロジェクト」を設置して地域支援ソフトを98本制作したほか、地域放送の特集番組やニュース・情報番組を引き続き受託し、各地域拠点局の要請に応えました。

NHKからの番組制作受託では、地上波で「うまいッ!」、「旬感☆ゴトーチ!」、「ごごナマ」などのほか、新たに四国ブロック向けの「ぐるっと四国 軽四キャンピングカーがゆく」などを制作しました。また、BS1で「聖火のキセキ」、BSプレミアムでは「釣りびと万歳」、「発見! 体感! にっぽん水紀行」、被災地復興支援番組の「きらり! えん旅」、特集番組「大中継! にっぽんのお盆」などを制作したほか、12月に本放送が始まったBS8Kでは、「カリヨン 時を超えるブルージュの鐘」などを制作しました。国際放送でも「CoreKyoto」、「J-Trip Plan」、「Wild Hokkaido!」などの定時番組を受託・制作し、当期も地域情報の全国及び海外発信に積極的に取り組んだほか、北海道胆振東部地震や西日本豪雨などの大規模災害時には、各地域拠点局の要請に応え、生活情報を届けるライフライン情報を制作しました。

イベント事業では、NHKの地域拠点局から公開番組や「NHK全国学校音楽コンクール」(Nコン)、「地域貢献イベント」などの業務を受託したほか、近畿総支社が「2018FIFAワールドカップロシア」8Kパブリックビューイングを手がけるなどスーパーハイビジョンのPRも行いました。東日本大震災被災地での「NHK公開復興サポート 明日へ」は宮城県名取市と岩手県大槌町で実施し、名取市では公開復興サポートとしては過去最高の来場者が訪れました。美術・展博では、近畿総支社が京都国立博物館、NHK京都放送局、読売新聞社などと共催した「京(みやこ)のかたな 匠のわざと雅のこころ」が目標の入場者数を大幅に上回る盛況となり、若い女性層などにアピールし、新たな視聴者層の拡大に貢献しました。

「経営基盤の整備」に向けては、平成30年3月に改革提言「Vision10」の中で示された社員の処遇や、人事制度などの改善施策の具体化を図るため、7月に「制度改革具体化プロジェクト」を立ち上げ、給与・考課制度の見直しを行い、平成31年4月から新制度による運用を始めることとしました。

働き方改革の推進に向けては、全支社長が集まる11月の経営戦略会議において、顧問社会保険労務士から改正労働基準法における時間外労働の上限規制、年次有給休暇の時季指定取得などについて説明を受け、改正法のポイントを共有しました。また、3月には全支社において、社員に対し改正法令の内容や、勤務・働き方に関する考え方の共有、勤務管理の重要なポイントの確認など、適正な労務管理に向けた取り組みを進めました。

(2) 各支社別の概況

(本社)

番組制作では総合テレビの定時番組「うまいッ!」、「旬感☆ゴトーチ!」や「あさいち」の「おでかけLIVE」、「JAPA-NAVI」コーナーで地域話題を全国発信したほか、2年目の「ごごナマ」は水曜日、木曜日の15時台を担当し、地域番組を全国に紹介しました。BS1では新たに2020東京オリンピック関連番組「聖火のキセキ」を受託。BSプレミアムの定時番組「釣りびと万歳」や震災復興支援番組「きらり! えん旅」なども制作しました。このほか、特集番組としてBSプレミアムの「発見! 体感! にっぽん水紀行」6本、「バス旅上等!」2本や、2時間の生放送番組「アラウンドTOKYO」などを制作。また、3.11震災関連番組として総合テレビで生放送「特集・明日へつなげよう 東日本大震災から8年」(109分)やBSプレミアム「バスで! 列車で! アッキーがゆく」(89分)を制作しました。国際放送では「Spiritual Explorers」を4本制作し、BS1で日本語版も放送されました。8Kでは「カリヨン 時を超えるブルージュの鐘」を制作しました。地域放送では首都圏向けの昼前情報番組「ひるまえほっと」のメインコーナーや「かんたんごはん」、「いま旬市場」などを制作。地域改革に伴う支援業務として30年度から「地域支援プロジェクト」を立ち上げ、98本の支援ソフトを制作したほか、四国ブロック向け放送番組「ぐるっと四国 軽四キャンピングカーがゆく」(27分・月1本)を制作し、地域放送の支援強化にあたりました。

イベントでは「NHK公開復興サポート 明日へ」の東京事務局を担い、宮城県名取市と岩手県大槌町での開催について東北支社と連携して対応しました。

(近畿総支社・四国支社)

全国放送番組のうち、趣味・実用番組は「きょうの料理」、「すてきにハンドメイド」、「まる得マガジン」、「俳句王国がゆく」(四国)を制作し、文化・教養番組は「歴史秘話ヒストリア」、「新日本風土記」、芸能番組は「バラエティ生活笑百科」、「にっぽんの芸能」、「上方落語の会」などを制作しました。情報番組は「ごごナマ」(金曜14時台)、「四国お昼のクローバー」(四国)を制作しました。このほか展覧会と連動した「春日大社シンポジウム」や、災害関連番組「BS1スペシャル二つの震災 出会いと再生の物語」、「明日へつなげよう 西日本広域災害 最後のひとりまで」などを提案・制作。BSP特集「大中継! にっぽんのお盆」は東北、中部、中国、九州各支社とネットワークを組み、3時間の列島縦断生放送を行いました。次年度・新番組開発のため「押しボン!」、「まいど! 修繕屋です」を企画・制作しました。国際放送「CoreKyoto」、「J-Trip Plan」を引き続き制作。

また、8Kの取り組みでは、29年度に引き続き宝塚歌劇公演の4組を収録し、全5組の収録を完了しました。地域番組は「ぐるっと四国 軽四キャンピングカーがゆく」(四国)を新規受託したほか、「ぐるっと関西おひる前」、「まちけん参上!」、「ルソンの壺」、「ひめポン 火曜日中継」(四国)などを制作しました。

NHKからの受託事業は、派遣番組の運營業務のほか、「2018FIFAワールドカップロシア」、「高橋大輔」の8Kパブリックビューイングや、展覧会と連動した「NHK公開講演会」などを手掛けたほか、主に小学生を対象に災害への備えを学ぶ「NHK防災サバイバル」を関西各地と四国・徳島で実施しました。自主事業のうち、イベントは「兵庫県政150周年記念式典」、「ムムム! 文楽シリーズ」等を実施しました。映像制作では「源氏物語ミュージアム」展

示アニメ映像や「南海トラフ地震・津波の脅威と減災啓発動画」、「百人一首競技かるた 名人位・クイーン位決定戦」などを手掛けました。展覧会事業は「国宝 春日大社のすべて」、「京のかたな 匠のわざと雅のこころ」を開催。特に人気ゲームソフトコンテンツ「刀剣乱舞」と連動した「京のかたな」展は、SNSを活用した広報の効果もあり、入場者は想定を大幅に上回り、経営面でも大きな成果を上げました。NHK大阪ホールの管理・運営業務は、安全・安心なホールとして大きなトラブルもなく実施しました。

(中部支社)

受託番組では、全国放送として「世界はほしいモノにあふれている」や「超絶 凄ワザ！オリンピック」、「釣りびと万歳」、「うまいッ！」、「趣味の園芸」、「旬感☆ゴトーチ！」、「あさいち〜おでかけLIVE/JAPA-NAVI」、また積極的な番組提案により、「課題解決ドキュメントふるさとグングン〜静岡」や「歴史秘話ヒストリア〜東京オリンピックに懸けた男たち」、「浜松ピアノ国際コンクール 蜜蜂と遠雷〜若きピアニストたちの18日」などを制作したほか、国際放送向けに「J-Trip Plan」を制作しました。地域放送では、昼前情報番組「さらさらサラダ」や音楽ライブ番組「Uta-Tube」、報道番組の「おはよう日本」土曜ローカル「ウィークエンド中部」や、夕方ニュース番組「まるっと！」の特集企画及び企画中継のほか、金とく「ネイチャーシリーズ」(4K制作)や「第16回全日本学生落語選手権策伝大賞」、「めざせ！学生落語の日本一〜ブーム支える大会に密着」などを制作しました。

地域改革に伴う地域局支援では、パイロット局の福井局ミニ番組や静岡局の「静岡ディレクソン」、「NHKワールド中継」などを制作。また、北陸3局向けに「北陸スペシャル・おもてなし北陸」を4本制作しました。

受託事業では、名古屋放送会館イベントで「NHKパパママフェスティバル」や「Nスポ名古屋2018」、番組と連動した地域貢献イベント「NHKネイチャーコンサート」や恒例の「NHKナゴヤニューイヤーコンサート」、「Nコン愛知県&東海北陸ブロックコンクール」、域内受託業務で「のど自慢」や「新・BS日本のうた」、「半分、青い。スペシャルトークショー」など、域内支援業務として地域局の「Nコン」や「のど自慢」などを手掛けました。またデジタル部門では、名古屋局や静岡局のデジタルサービス制作・HP更新業務を受託し、ドラマ10「トクサツガガ」や地域ドラマ「プラスチック・スマイル」(静岡)、「#乳がんダイアリー」などの一部を制作し、データ放送制作業務では生放送データ連動のプロ野球中継や「ニッポンのワケメ」を実施し、域内7局のデータ7項目ニュース更新業務(NEWS WEBを含む)やデータ情報アーカイブ管理業務なども実施しました。

自主事業では、「東儀×古澤×coba全国ツアーコンサート」や「古澤巖×ベルリンフィル ヴィルトゥオージ公演」、「地域伝統芸能全国大会」、「金魚絵師・深堀隆介展」、東根市公益文化施設「まなびあテラス」美術展、愛知県主催の「健康づくりセミナー」や「学生消防団シンポジウム」などを実施し、関連団体からの受託事業では、「高専ロボコン〜東海北陸地区大会」や「おかあさんといっしょファミリーコンサート」、「いないいないばあっ！ワンワンわんだーらんど」、「至上の印象派展〜ビュールレコレクション」などを実施しました。デジタル部門では、「防災ほっとメール」や「地域映像アーカイブス」(図書館など公共施設)、「リニモ沿線地域活力創生事業」、「自治体等HP保守管理業務」なども手掛けました。

(中国支社)

受託番組では西日本豪雨災害に際し「ライフライン放送」を約1か月間にわたり実施したほか、複数の被災地を継続的に取材し、全国放送の「ハートネットTV」や「課題解決ドキュメント ふるさとグングン!」、「目撃! にっぽん」などを通じて、被災者が直面する課題や復興に向けた地域の取り組みを広く全国に伝えました。

受託事業は、東京2020オリンピック・パラリンピック関連イベント「Nスポ! in とっとり」や「いのちのうた2018」を実施。自主事業は「N響・福山公演」や「北御堂ミュージアム展示映像」などのイベントやソフト制作を手掛けました。

(九州支社)

全国番組では、「うまいッ!」、「あさいチ」、「旬感☆ゴトーチ!」、「釣りびと万歳」、国際放送では「Train Cruise」を制作しました。地域番組では、2018年、世界遺産に指定された長崎の潜伏キリシタンを題材にした「世界遺産スペシャル 潜伏キリシタン 250年の祈り」や、大河ドラマ「西郷どん」の主人公、西郷隆盛の最期を描いた「西郷どん 最後の旅路をゆく」を制作しました。さらに九州沖縄を紀行する「アサタビ!」を年間10本制作し、各地域局の支援ソフトとしての役割を果たしました。

受託事業は地域貢献イベント「がめにライブ」のほか、北部九州のミニブロック化に伴い北九州局と佐賀局で実施された5本の公開番組の運営などを担当しました。自主事業については、4年前の鹿児島に続いて大分で開催された「国民文化祭」のイベント事業を受注し、「西郷どんドラマ館」、「福岡市民俗芸能公演会」と合わせて3つの事業を実施しました。

(東北支社)

番組では東日本大震災から8年を迎えた今年も「アッキーがゆく“復興の地”2019」、「明日へつなげよう～東日本大震災から8年～」など被災地に寄り添った番組を制作しました。このほか全国放送では「うまいッ!」、「釣りびと万歳」、「あさいチ JAPA-NAVI」など、国際放送では「Train Cruise」、地域放送では「みちたん～ああ! すばらしきセカイ～」、「東北ココから」、昼前情報番組「もりすた!」などを制作しました。

受託事業では「NHK公開復興サポート 明日へ」(宮城県名取市・岩手県大槌町の2カ所)を実施し、名取市では公開復興サポートとしては過去最高の1万3931人が来場しました。また、地域貢献イベント「リボン夕涼みまつり・石巻」などを実施し、仙台局新放送会館オープン1周年に合わせた公開番組やイベントなども実施しました。

(北海道支社)

番組は、全国放送として「NHKスペシャル 知床 シャチ 謎の大集団を追い」、「うまいッ!」、「旬感☆ゴトーチ!」、「あさいチ～おでかけLIVE」、「さわやか自然百景」など数多くの番組を制作しました。北海道地域向けでは「いくぞ～! 北の出会い旅」などの特集番組や「おはよう北海道土曜プラス」、「知っとく北海道」などの情報番組を制作し、国際放送では「Wild Hokkaido!」、「Train Cruise」などの番組を通して、世界に北海道の魅力を発信しました。2018年9月6日に北海道を襲った震度7の胆振東部地震では、ライフライン放送を実施して、地域に必要な情報を提供し、NHKグループに寄せられる期待に応えました。

イベント事業では、「NHKのど自慢(根室市、洞爺湖町)」、「Nコン(地区大会、全道大会)」、「高専ロボコン(旭川)」、「民謡魂(江差町)」、「新・BS日本のうた(斜里町)」、さっぽろ雪まつり会場での「NHK雪んこフェスタ」、「なつぞらトークショー」、厚真町での震災復興イベントなど、年度を通して数多くの催しの運営を行いました。

(3) 対処すべき課題

「NHKが進める『地域改革』をけん引し、地域社会に貢献する」ことを基本方針に掲げる当社としては、各ブロックの地域サービスに的確に対応するための新たな体制を構築し、経営安定に向けた事業運営を進めていきます。

2018年12月に、2020年4月の株式会社NHKエンタープライズ(NEP)との経営統合に向けて具体的検討を開始することで基本合意に至りました。1月より「NEP・NPN統合推進委員会」を中心に、各分野の検討部会において、新会社発足に向けた準備を進めています。

2019年4月の改正労働基準法など働き方改革関連法の施行を踏まえ、計画的な勤労休暇の取得、適正な勤務管理の徹底による恒常的な長時間労働の抑止、多様な働き方を検討するなど働き方改革を推進していきます。

(4) 設備投資等の状況

当期において実施した設備投資の総額は、15,573千円で、主な内容は、編集機の購入6,248千円、大容量記録メディアの購入2,360千円等です。

(5) 財産および損益の状況の推移

区 分	第 28 期 (平成 28 年 3 月期)	第 29 期 (平成 29 年 3 月期)	第 30 期 (平成 30 年 3 月期)	第 31 期 (平成 31 年 3 月期)
売上高(千円)	7,810,761	7,002,448	9,157,423	8,641,626
経常利益(千円)	194,277	144,900	413,991	362,492
当期純利益(千円)	115,504	72,584	277,645	246,432
1株当たり当期純利益(円)	24,476	15,381	58,835	52,221
総資産(千円)	3,988,830	3,937,556	4,167,600	4,195,610
純資産(千円)	2,625,886	2,653,572	2,501,788	2,606,651

(6) 重要な親会社の状況

当社の親会社は日本放送協会であり、同協会は当社の株式を2,462株(議決権比率の52.17%)保有しています。

当社は、同協会からの受託による放送番組などの企画・制作、イベント・展覧会・博覧会などの企画・実施、NHK大阪ホールの管理・運営などを行っています。

(7) 主要な事業内容

- ① NHKの委託による放送番組の企画・制作
- ② 映像ソフト・マルチメディアコンテンツの企画・制作
- ③ イベントの企画・制作
- ④ 展覧会・博覧会の企画・実施
- ⑤ NHK大阪ホールの管理・運営

(8) 主要な事業所

区 分	所 在 地
本社	東京都渋谷区神山町5番20号 神山町小川ビル
近畿総支社	大阪市中央区谷町三丁目1番18号 NS21ビル
同 四国支社	松山市堀之内5番地 NHK松山放送局内
中部支社	名古屋市東区東桜一丁目13番3号 NHK名古屋放送センタービル
中国支社	広島市中区大手町二丁目11番10号 NHK広島放送センタービル
九州支社	福岡市中央区六本松一丁目1番10号 NHK福岡放送センタービル
東北支社	仙台市青葉区本町二丁目9番7号 仙台YFビル
北海道支社	札幌市中央区大通西一丁目1番地 NHK札幌放送局内

(9) 従業員の状況

区 分	従 業 員	NHK 出向者 等	合 計
男	62 名	84 名	146 名
女	67 名	4 名	71 名
計	129 名	88 名	217 名

2 会社の株式の発行に関する事項

- (1)発行可能株式総数 6,000 株
 (2)発行済株式の総数 4,719 株
 (3)株主数 50 名

株 主 名	持株数	持株比率
日本放送協会	2,462 株	52.17%
(株)NHKエンタープライズ	650 株	13.77%
(株)NHKグローバルメディアサービス	273 株	5.79%
(株)NHKプロモーション	162 株	3.43%
(株)NHKメディアテクノロジー	138 株	2.92%
(株)NHKエデュケーショナル	108 株	2.29%
(株)NHK文化センター	66 株	1.40%
(株)NHK出版	66 株	1.40%
(株)みずほ銀行	61 株	1.29%
(株)NHKアート	56 株	1.19%
(株)NHKアイテック	56 株	1.19%
(株)三菱UFJ銀行	37 株	0.78%
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)	29 株	0.61%
学校法人君が淵学園 (株)西日本シティ銀行 (株)福岡銀行 (株)ベスト電器 (株)ふくや 東北電力(株) (株)藤崎	各 24 株	各 0.51%
京都府 兵庫県 滋賀県 京都市 神戸市 奈良市 大津市 阪急電鉄(株) 関西電力(株) 京阪ホールディングス(株) 大阪瓦斯(株) 近鉄グループホールディングス(株)	各 20 株	各 0.42%
中部電力(株) 東海旅客鉄道(株) 名古屋鉄道(株) トヨタ自動車(株)	各 17 株	各 0.36%
(株)ゼンリン	12 株	0.25%
(株)北洋銀行	10 株	0.21%
福山通運(株) 中国電力(株) 広島ガス(株)	各 6 株	各 0.13%
高山市 東邦瓦斯(株) セイノーホールディングス(株) スターキャット・ケーブルネットワーク(株) 伊藤組土建(株) 北海道電力(株)	各 5 株	各 0.11%
(株)天満屋 (株)福屋 (株)広島東洋カーブ	各 3 株	各 0.06%

3 会社役員に関する事項

(1) 取締役および監査役の氏名等

地 位	氏 名	担当または主な職業
代表取締役社長	山 崎 秋一郎	
専務取締役	井 上 利 丸	近畿総支社長、事業担当
取締役	杉 山 太 一	制作、制度改革具体化プロジェクト担当
取締役(非常勤)	奥 理 人	NHK編成局編成センター長
取締役(非常勤)	桑 代 百合子	NHK首都圏放送センター長
取締役(非常勤)	山 本 英 俊	NHK関連事業局 専任部長
取締役(非常勤)	佐 藤 幹 夫	株式会社NHKエンタープライズ専務取締役
取締役(非常勤)	畠 山 経 彦	株式会社NHKプロモーション代表取締役社長
監査役	大 月 将 幸	弁護士・公認会計士
監査役(非常勤)	河 野 優 加	株式会社みずほ銀行 営業第十八部次長
監査役(非常勤)	柳 田 祐 子	NHK内部監査室監査部専任部長

- (注) 1. 平成30年6月27日付で、杉山太一が取締役に、河野優加が監査役(非常勤)に就任しました。
 2. 平成30年6月27日付で、河村秀世が常務取締役を、古椀裕章が監査役(非常勤)を退任しました。

(2) 取締役および監査役の報酬等の額

対象者	人数	報酬の額
取締役	3名	50,344 千円
監査役	1名	8,508 千円

- (注) 1. 使用人兼務取締役の使用人分給与はありません。
 2. 株主総会決議による取締役に対する報酬限度額は、年額 100,000 千円、監査役に対する報酬限度額は、年額 20,000 千円であります。

4 会社の体制及び方針

(1) 当社の業務の適正を確保するための体制の整備について、取締役会で決議した内容は次のとおりです。

① 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役は、職務の執行が法令・定款に適合することを確保するため、職務分担に従い、諸規則、規程等を整備し、社内でその周知・徹底を図る。取締役会規則を遵守し、取締役間の意思疎通を図るとともに相互の業務執行を監督し、監査役はこの内部統制に関する体制の有効性と機能を監視し、課題の早期発見と是正に努める。

② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

関連規程を整備し、取締役の職務執行に係わる情報を、文書で適切に保存する。取締役及び監査役は、規程により、必要な時には何時でもこれらの文書を閲覧できる。今年度も引き続き文書管理規程等に基づき、各会議の議事録等の文書を作成・保管し、監査役に対しては期中監査・期末監査を通じて閲覧の用に供した。

③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

代表取締役社長をリスク管理統括責任者とし、事業活動に伴う重大なリスクの顕在化を防ぎ、万一リスクが顕在化した場合の損害を最小限にとどめるためのリスク管理体制を整備して、その適切な運用・管理にあたる。

④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会において、各取締役の業務分担を明確にし、各機関及び各職位の権限等を規程に定めて、会社の意思決定及び執行を効率的かつ適正に行う。取締役会で経営資源の配分を決定し、年度事業計画により具体的な経営目標を定め、常勤役員会でその進捗状況を分析して、各部門が実施すべき具体的施策を検討し、効率的業務を遂行する。

⑤ 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

諸規則・規程・「倫理・行動憲章」等マニュアルなどを周知徹底し、遵守させることによって、法令及び定款に違反する行為の未然防止を図る。

⑥ 会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

親企業であるNHKのコンプライアンス体制と連携しつつ業務の適正を確保する。

⑦ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役は、その職務を補助するために使用人が必要な場合、本社経営企画室の使用人に監査業務に必要な事項を命令することができる。

⑧ 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役より監査業務に必要な命令を受けた使用人は、その命令に関して、取締役等の指揮命令を受けない。

⑨ 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

監査役は、重要な意思決定のプロセスや業務の執行状況を把握するため、取締役会その他の重要な会議に出席するとともに、決裁書類等の業務執行に係わる重要な文書を閲覧し、必要がある場合にはいつでも取締役及び使用人に説明を求めることができる。

取締役は会社に重大な影響を及ぼす事実を発見した時は直ちに監査役に報告する。

⑩ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、取締役と必要に応じて会合を持ち、監査上の重要課題の意見及び情報の交換を行い、監査の実効性の確保を図る。

また、この取締役会決議を適切に実行するため、「株式会社NHKプラネット倫理・行動憲章と行動指針」を定めて、その遵守を図るほか、取締役会規則、常勤役員会規則、コンプライアンス推進計画、文書管理規程などの諸規程の制定・整備、コンプライアンス推進委員会の設置、取締役会議事録、常勤役員会議事録の整備などに努めています。さらに、当社の親会社であるNHKを中核とする企業集団の業務の適正性の確保のため、当社でもNHKの定めた「NHK倫理・行動憲章」「関連団体運営基準」などに従って、適正な業務運営に努めています。

(2) 運用状況の概要

当社の取締役会は、取締役8名（うち、非常勤取締役5名）で構成されており、当期は9回開催しました。社外監査役2名を含む3名の監査役も出席し、取締役が業務執行状況を報告するとともに重要事項の審議・決議を行っています。また、常勤監査役は、取締役会のほか常勤役員会等の社内の重要会議にはほぼ全て出席するとともに、取締役より業務執行の状況について報告を受け、業務執行の状況や内部統制、コンプライアンスに関する問題点を監視する体制を整備しています。

コンプライアンスに関する取り組みの状況では、引き続き、常勤役員会の開催に合わせ、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を開催し、コンプライアンスやリスクマネジメントに関する報告や決定を行っています。また、当社独自の内部監査機能としての取り組みである「支社間相互モニタリング」を九州支社で実施し、業務プロセスを検証する「ウォークスルー」を本社で行いました。このほか、中部支社、中国支社、東北支社、北海道支社を対象に行われたNHKの内部調査において、助言された事項については全社で共有するなど、内部統制の強化につなげました。

(3) 全社的內部統制の評価

全社的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」の6つの観点から整備状況及び運用状況の有効性を評価した結果、平成31年3月31日時点における当社の内部統制は、概ね有効であると判断しました。